

# 令和元年度

## 第2回 南伊豆町総合教育会議議事録

日 時 令和2年1月20日(月) 15時30分から16時50分  
場 所 南伊豆町役場 3階 会議室  
出席者 町 長 岡部克仁  
教育長 佐野薫  
教育長職務代理者 下村和雄  
委 員 大年清一  
委 員 山口絹代  
委 員 井上誠也

説明出席者 事務局 長 大野孝行  
学校教育係長 萩原拓三  
社会教育係長 桑原信孝

傍聴者 なし

### 1 開 会

事務局長 開会宣言、議長は町長が務める旨述べ、進行を議長に依頼する。

### 2 議 事

岡部議長 あいさつ及び議事録署名人について、教育長及び議長が務めることを述べ議事に入る。

議事(1) 学校統合について事務局の説明を求める。

事務局長 資料(原案)に基づき、学校統合について方向性、スケジュール等を説明

・31.1.22 伊豆新聞 「授業がやりにくくなったら統合すべきというのを第一に計画的に進める」と教育長発言済み。

・学校統合に係る賀茂地区の他市町の状況

- ・ 中学校統合：「町内中学校生徒数の推移」を参考に考える。
- ・ 統合後の学校施設活用構想
- ・ 統合検討委員会の設置
- ・ 小学校についても町年齢別人口を参考に考える。
- ・ 学校施設のユニバーサルデザイン化の検討

岡部議長

質問はあるか。

大年委員

学校施設のユニバーサルデザイン化はやらなければならないのか。

事務局長

その設備を必要とする者が入学を希望するのであればやらなければならない。

岡部議長

町の財政状況も厳しい中でそのために統合する訳ではないが、切り離せない部分もある。

そういう面では、時期の問題、もちろんそれ以外のことでも構わないので忌憚のない意見を伺いたい。

佐野教育長

建物の老朽化は待ってくれない。その補修費はかさんでいく。そういう意味では、統合の方向性を定め一気にやり替えるならばぎりぎりまで待つのも方策。

下村委員

授業が成り立つのか等も鑑み、いずれはやらなければならないものであろうことから、ある程度の幅を持たせた期間の中でも早い時期にやった方が良いのではないか。

佐野教育長

南伊豆中においては、体育館以外に一堂に生徒を集める場所がない。トイレが古い。教室入口扉が規格外で現在同じものはない。校舎整備としては限界にきていると感じる。

しかし、校舎として使わなくなった場合、そのまま何かの施設に転用できるかと言えおそらく無理であろう。新築にしろ、耐震補強にしろ、この場所に学校を置くとするならば、南伊豆東中の方はどうにでも後の利用が可能である。南伊豆東小学校にしてもそうである。それを町のメリットとして考えられるが、そのためにも維持費がかかるという大きな

課題がある。

学校統合は校舎の老朽化のスピードと維持費用を算出し、1年1年進んでいくことが肝要であると思うので、早めの検討委員会等の立ち上げが必要だし様々な立場の方、教育関係者ばかりでなく、設計士等の建物の老朽化対策に詳しい方、観光関係者等に入っていただく等で検討を進めて行ってはどうか。

山口委員 一番大切なものは子供たちの安全であり、耐震診断等を実施してはどうか。

佐野教育長 いずれにしても、中学校統合後の小学校統合はそれほどの期間は無いと思う。小学校でも中学校でも学校改修を行っている間は、廃校となる校舎へ仮移転し授業を行う。プレハブ校舎建設にも費用がかかる。

岡部議長 仮に今、新校舎、体育館、グラウンド改修を実施するとなったら国県からどれほどの補助があるのか。

萩原係長 国庫補助もあり起債も可能であるので、2割ほどが町費負担となると思う。

下村委員 下田中学にしてもどこにしても、建築後三十数年で同じくらいの古さである。

山口委員 学校の老朽化が進み、建て替えなり大規模修繕なりが必要なことは行政も把握しているなかで、それに充てる基金等準備してないのか。

萩原係長 もっと広義な意味での公共施設建設についての基金はあるが、学校に特化した基金はない。

事務局長 ふるさと寄附金を原資としたふるさと応援基金のうちの使用目的として教育使途に指定されたものくらいではないか。

山口委員 どの学校にしても駐車場が少ないのではないか。今後の改修等においてはその点も考えていかななくてはならない。

岡部議長 子供の安全を考えると早めに整備したほうが良いのはよくわかるが。

佐野教育長 そろそろ、委員会の立ち上げ時期が来たと感じる。

- 岡部議長 委員会の立ち上げ、運営についてはどう進めて行くのか。
- 萩原係長 中学校だけでなく小学校も含めての統合についての検討委員会にするのか。
- 岡部議長 そういう繋がりの中で進めて行った方が良い。
- 佐野教育長 双方を連携させて考えていったほうが良い。一連の流れの中で進めて行った方が良い。
- 下村委員 学校統合を前提として話が進むのか、統合前提以外の教育環境のことも協議するのか。
- 佐野教育長 総合教育計画、10年プランみたいなもののなかの学校再編検討委員会という形にしていきたい。
- 井上委員 仮に委員会を立ち上げた場合、最短でどのくらいで統合ということになるのか。
- 佐野教育長 校舎がどのくらいもつのかと子供の数の推移で判断しているので、中学だけで考えるとやはり町内生徒数が150人を割る令和8～10年度あたりである。
- 岡部議長 生徒数が関係なくても、今からやるとなれば5年くらいはかかるであろう。
- 佐野教育長 統合する3年前には、教職員の人数の関係で県教育委員会に話しておかなければならない。
- 下村委員 校舎についての予算、国県補助金などは3年前くらいに手を挙げるのか。
- 事務局長 2年前くらいではないかと思う。今では、町で公共施設整備計画を策定していないと補助金交付が受けられないようである。
- 下村委員 近隣市町で学校統合を進めているが、どこについても校舎新築を予定している。下田も西伊豆も河津も皆同じ時期に現校舎を建設している。校舎を新しくすることはやっていかなければならないこと。どうせあと10年もすれば限界になってくる。校舎を建て替えるくらいの気持ちを

もって計画を進めていただきたい。

岡部議長           ここ6年以内に中学校舎を建て替え、改修等ができるような動きにも  
ついていけないといけないし、その3年後くらいには小学校もやっていく  
ということで、そういう適切な時期も決めていかなければならない。

事務局長           建て替えするか、今の校舎を使うのかによって維持修繕のお金のかけ  
方が違ってくる。

岡部議長           そのあたりを専門家に診てもらいどのくらいもつのか調べてもらわな  
いと安易に内部だけ改修してあとでダメでしたという訳にはいかない。  
また、もつ建物をわざわざ新しくすることもない。

事務局長           おそらく小学校についても建て替えなり大規模改修であろう。小中学  
校両方となると時期をずらして予算支出の平準化を図りたい。

下村委員           小学校の方が階層が低いので耐震補強等により先送りができるのでは  
ないか。

岡部議長           現状の町内出生状況を鑑みると、20年後に町内に小学校が1校あること  
自体も大変なことなのかもしれない。下田の学校にバスで通っているか  
もしれない。

山口委員           小中一貫校の考えはないのか。

佐野教育長       教員免許の問題などいろいろな面で制限があるので、緊密な小中連携  
校といった形としたい。

山口委員           小中一貫校であれば、校舎が一つで済むし、中学生と小学生が一緒に  
登校できるのでそういう面では選択肢の一つとなるのではないか。

佐野教育長       小中一貫校は小中両方の免許を保持している教員でなければならない  
ため、賀茂地区のように地区で教員人事を行っているところでは人材的  
に両方所有の教員を一貫校に多くとられてしまっては他市町との教員の  
バランスがうまく保てなくなる可能性がある。周りの学校との相違点も  
出てくる。

現在、南伊豆東小・中では、連携校として小学校の音楽と英語の授業  
に中学校の専門科目の教員が授業を実施している

事務局長           では、中学統合については令和8～10年度あたりがポイントであり、来年度くらいから、学校再編に係る検討委員会を設置して話を詰めていくことはこの場で決まったということによろしいか。

《           全員了承           》

下村委員           その公表をいつやるのか。

事務局長           委員会設置は委員報酬等の予算も伴うことであり、予算上程時期に合わせて説明しても良いと考えている。

岡部議長           検討委員会を設置することは施政方針等に盛り込んでも良いと思う。

佐野教育長       近隣市町がこれだけ動いてくると、当町はどうなのかという話が出てくる。

下村委員           統合を表明している市町で一番早いのはどこか。

佐野教育長       西伊豆、下田、河津の順。

岡部議長           他に検討事項はあるか。  
無ければ議事を終了する。  
進行を事務局へ返す。

事務局長           議事は終了。  
以上で令和元年度第2回南伊豆町総合教育会議を閉会とする。

記事録署名人 岡部克仁

記事録署名人 佐野 董

記事録署名人 大野孝行